令和５年度 特別支援教育 研究のまとめ
梶山雅司・久下あいり・横山由季・髙阪英徳
笹倉美代・小野村晃太・高木由希・松下友紀
１．研究会等で明らかになった教科等の資質能力の具体
（１）小学校 特別支援学級 中学年「クラス発表会～むしたちのうんどうかいをしよう～」
資質能力 児童・生徒の姿 手立て キーワード
授業
構想力
○絵本に登場する虫のイメ
ージを言語化し，その虫のイ
メージを体で表現した。
・自分の見せ場を考え，自分なりの
言葉や動作で虫を表現することで，
自分の役のやるべきことをイメー
ジできるようにした。
意欲を育てる工夫
○劇の取り組みの中で，発表
後のゴールイメージをもつ
ことで，見通しをもって学習
や活動に取り組むことがで
きた。
・友だちや家族が見ている前で劇
をすることに期待感をもち，また，
それを他者からの評価をしてもら
うことで，がんばった自分を実感
し，劇の取り組みに対する達成感を
もつことができるようにした。
知識，技能，学びに向
かう態度等の育成
授業
実践力
●児童によっては，選択肢か
ら選ぶ場面で，選択肢を順番
に答える場面があり，場面に
あった思考に至らなかった。
・自分の出どころでの言葉や動き
を考えたり，選択したりして，自分
なりの表現方法で，演じることがで
きるようにした。
主体的活動を促す手
立て

○競技の特性や協議前の気
持ちなどを自分で考えて，セ
リフにすることができた。
・児童が自分の経験をもとした事
柄を絵本と関連付けることで，絵本
の内容や場面ごとの演出を具体的
にイメージできるようにし，言葉や
動きで表現できるようにした。
課題解決に向けた思
考力，判断力，表現力
等を育む指導
授業
分析・
評価力
○クラス発表会後のイメー
ジをもって，「パパとママ，
ほめてくれるかな」と，発言
する児童の姿があった。
・劇に取り組むことでの他者から
の評価を，活動やふりかえりの中
で，具体的な言葉がけで働きかけ
た。
学習への意欲に対す
る見取りや分析
○劇の発表後，自分の役を思
い出して演じたり，虫のおも
ちゃ等を触ったりする自主
的な姿が見られた。
・劇の発表後に自信や達成感をも
つことができるように，児童が主体
的に取り組むことができる場面の
設定と劇に関連した取り組みを継
続的に行った。

（２）小学校 特別支援 ６年図画工作科「養高博物館 with 遠隔操作ロボット」
資質能力 児童・生徒の姿 手立て キーワード
授業
構想力
○博物館で鑑賞したことを普
段の会話の中で話題にする姿
が見られた。 ・公共の施設（広島県立歴史博物
館）と連携して児童の活動の幅
を広げた。
生活と結びつきのある
指導内容の設定
○他教科の授業も，児童が自
分で内容や順番を決めて進行
しようとしていた。 ・児童の興味関心に基付いた授
業展開や，児童が主体となって
活動できる環境を設定した。
知識，技能，学びに向か
う態度等の育成
意欲を育てる工夫
授業
実践力 ○日常生活の中で，物事を比
較したり，イメージをもとに
新たに作ろうとしたりしていた。 ・日頃から，造形的な見方・考え
方に関する話題に触れたり，イ
メージ豊かな会話をしたりする
ようにした。
課題解決に向けた思考
力，判断力，表現力等を
育む指導
授業
分析・
評価力
○児童自身が動画を視聴して
自己省察をすることで一層意
欲が増し，新規な活動に取り
組もうとする姿が見られた。 ・児童の言動の変容を抽出し，ど
のような場面で目標に関する言
動や探究心が喚起されるのかを
考察した。
段階的な指導を行うた
めの見取りや分析，授
業改善
（３）中学校 特別支援 生活単元学習 ２年「わたしと東雲のまち」
資質能力 児童・生徒の姿 手立て キーワード
授業
構想力
〇生徒が地図を前に積極的
に意見を出し合いに意  ，     	&Â
v› v
v›Í	ün
´	v$v½|óÂ‰ÍæÀen-US

 	&Â v›žÌÙÐp™à6&Û‰šPÕ€v›vvu v›Í`8•6Àen-US

２．研究についての考察
表 1 特別支援教育の本来の魅力に迫るための教師の資質能力
資質能力 特別支援教育が考える「教師の資質能力」の具体
授業構想力
・児童生徒がイメージできるもの，生活に身近な題材を扱った授業づくり
・児童生徒の体験や経験を踏まえ，その知識と関連づけた授業づくり
授業実践力
・個別の課題に応じて，児童生徒の思考を促したり，学習を深めたりすること
・設定した学習課題に対して，児童生徒の知識や経験，考えていることを言語や対話で
引き出すこと
・他の学習や日常生活に関連付けた学びの広がり
授業分析・
評価力
・授業や単元終了後に，学習したことの広がりや深まりなど，生活と関連づけて，児童
生徒の姿をと捉えていく授業づくり
・生活と関連付けた学習の広がりと児童生徒の見取り
・授業前に想定した児童の具体的な姿を，実際の姿と関連づけて評価する。事前に考え
た手立ての有効性を検討できること

成果 課題
・逆向き設計論における授業づくりをすること
で，指導案の書き方についてはこれまでと重なる
点があることがわかった。
・特別支援教育においては，本時の学習の中では，
児童の変容を捉えることができない場合があり，
単元で変容を記述していく方が，評価がしやすい。
・目標や手立てが焦点化，明確化したことで，目
標とする児童の姿をより具体的に持つことがで
き，言葉掛けや評価に生かすことができた。
・評価基準を細分化したことにより，スモールス
テップでの評価が可能となった。
・個別の行動目標がと関連づけて評価していくた
め，評価する内容がどの内容と関連しているのか
わかりづらいという意見があった。
・特別支援学級での指導案の場合，個別の目標と
手立てがすでにあるため，重複する部分が生まれ
た。
・個別に評価を行うため，人数分のルーブリック
が必要となり，日々の実践を考えると現実的では
なかった。
・目標設定や手立ての妥当性及び客観性，評価方
法の在り方について検討していく必要がある。